

平成8年度(1996年度)事業計画書

1995年は、景気回復基調に転じかけた日本経済が阪神淡路大震災・サリン事件といった不測の事態に直面し逆に混迷を深めた年でもありました。『メセナ白書1995』によれば企業メセナの資金援助の総額は漸減傾向が続いていますし、助成認定活動に対する支援金額も小口化するなど、企業のメセナ環境はさらに厳しい状況にあると云えましょう。そのなかにあつて、メセナ実施企業は少しでも支援金額を増やしたり、限られた予算のなかで支援金額を小口化してでも支援件数を増やす努力をしている実態が白書で明らかになっております。即ち、支援件数では前年より増加したと回答した企業は22%、前年と変わらぬ企業は61%となっています。また、当協議会の助成認定を受けた芸術活動に対する支援企業数や支援金も大きく増加し、前年の150%にあたる300社、2.8億円が見込まれます。このように見ますと、厳しい経営環境の中にあつてメセナ担当者の努力により企業メセナが着実に進んでいることが窺えます。当協議会としましては、一層の啓発活動を行なうことで、メセナ担当者の業務が遂行しやすい環境づくりをすることが必要と考えます。

一方、地方の企業が協力して地元の芸術文化を支援しようと組織化の動きがありました。最近では地方自治体にも企業の協力を得たいと考えているところが増えてきています。このような動きをさらに拡大、強化することに当協議会も努めていくべきと考えます。

昨年5月に開催し、メセナに関する国際連帯の必要性を相互に確認した「国際メセナ会議'95」の成果を踏まえ、アジア版セレックの設立に向けて関係各国との話し合いを進めてまいります。

当協議会も設立後7年目に入り、今後の進むべき方向についてあらためて検討する時期にきていると考えます。各方面の意見を聞き、21世紀のメセナビジョンを策定してまいります。

以上の考えににもとずき、96年度は以下の活動を中心に進めてまいります。

- (1). 昨年承認いただいた中期構想については2年目の活動に入ります
 - 1.1 企業啓発活動の充実を図ってまいります。
 - ①社会生産性本部など他の機関が開催する講座にメセナに関する科目を常設するよう働きかけます
 - ②若手メセナ担当者の交流・育成を図ります
 - ③関西地区でセミナーを開催します
 - 1.2 地方メセナと企業メセナの新しい関係を構築してまいります
 - ①全国メセナ組織連絡会を設置し、情報交換、協力体制の確立を図ります
 - ②地方メセナと企業メセナとの関係を海外に学ぶ第3次海外視察団を97年度に派遣すべく準備を進めます
 - ③東京都など地方自治体のアート・マネジメント人材育成に協力してまいります
 - ④文化庁、財団法人地域創造、財団法人地域活性化センターなどと協力し、地方における企業メセナの拡大を図ります
- (2). 国際会議のフォローをいたします
 - ①アジア版セレック設立について今夏開催のBCA主催の国際会議に提起し具体的な検討に入る予定です
 - ②韓国メセナ協議会との連携をすすめてまいります
- (3). 長期ビジョンを策定します
 - ①21世紀メセナビジョン委員会を設置いたします
- (4). メセナ情報の集配の迅速化を図ります
 - ①インターネットの活用を図ります

具体的には次の事業を行なつてまいります。

1. 収入計画

1.1 会費収入

1996年 4月 1日の会員数は正会員は175社475口、準会員40社44口となる予定です。1996年度の予算編成上の獲得目標口数を一応、正会員 7口合計 482口、準会員 6口合計50口とし、会費収入合計額12,640万円を見込みました。

1.2 事業収入

メセナ誌の売上収入 100万円、メセナ誌広告収入 240万円、セミナー等の参加費収入 36万円、メセナ白書売上収入 130万円と見込んで事業費収入計 506万円としました。

1.3 雑収入

受取利息などで、120万円を見込んでおります。

1.4 助成金収入

当協議会を經由して支援する助成金を14,514万円と見込みました。

以上1996年度単年度の収入合計は27,780万円となります。

2. 事業計画

2.1 啓発・普及事業

2.1.1 会員懇話会

これまで通常総会のあと、会員の親睦と情報交換の場として年 2回開催してきましたが、96年度は会員とアーティストの交歓の場としてセミナー等のあとに開催することに改めます。

2.1.2 定例会

会員企業とアーティストや文化団体との相互理解の場とする定例会は年 3回程度企画してまいります。

2.1.3 企業メセナセミナー

会員企業のメセナ担当者を対象に、企業メセナの実務を修得することを目的に行っている企業メセナセミナーは95年度を基本的に踏襲してまいります。

①企業メセナセミナー入門編

異動等により、初めてメセナ部門の担当になった方々を対象にメセナ活動の基本的な考え方を多方面から理解していただきます。

②ケーススタディ・シリーズ

会員企業のメセナ活動を相互に紹介するケーススタディ。その他、メセナ担当者がかかえる諸問題について情報交換を行うセミナーを開催いたします。

③アートを学ぶ

1996年度は芸術の各分野についてより深く理解する場とし、演劇、音楽の2分野についての1分野10回シリーズで実施します。

各セミナーは関西でも開催いたします。

2.1.4 アート・マネジメント講座

現在、地方自治体では文化施設の運営や文化事業に携わる専門的人材の育成が急務とされています。東京都などの自治体や企業と協力してアート・マネジメント講座の開催（内容を当協議会で企画）をすすめてまいります。

2.2 情報収集・仲介事業

2.2.1 メセナ誌

95年度は32頁から40頁に増頁し内容充実を図りましたが、今年はさらに読者層をひろげるためにリニューアルを図ってまいります。

2.2.2 ニュースレター

会員企業に対する機関紙です。95年度を踏襲してまいります。

2.2.3 インターネット

インターネットによる情報の集配を迅速に行なってまいります。

2.3 調査・研究事業

2.3.1 メセナ白書

『メセナ白書1995』は25カ国のメセナの現状をまとめた「世界のメセナ」を特集しました。『メセナ白書1996』では企業の芸術文化施設にスポットを当て、企業、アーティスト、市民の立場からこれらの施設についての調査を行います。

2.4 顕彰事業

2.4.1 メセナ大賞

91年度からスタートしたメセナ大賞は4年目を機に審査委員や入賞件数、賞の名称等の再検討を行い、より多くの企業・団体が応募できるよう改善を図りましたが、96年度は前年度を踏襲してまいります。

2.5 国際交流事業

2.5.1 アジア版セレック設立準備

1995年の「国際メセナ会議'95」で提唱されたアジア版セレックの設立については今夏に開催予定のBCA主催の国際会議で検討議題とするよう提案いたします。この問題については韓国メセナ協議会と連絡をとりながらすすめてまいります。

2.5.2 第3次海外視察団の派遣準備

1997年度に実施予定の第3次海外視察団は「地方の芸術文化振興と企業メセナ」をテーマに英仏への派遣を準備いたします。

2.6 助成事業

1995年度助成事業のスルー金額は目標の20,524万円を大きく上回る約2.8億円となる見込みです。しかし、この制度は、全国的には広く知られていませんので、96年度は一層PR活動に力を入れてまいります。

2.7 中期構想の具体化

前述の中期構想を具体化するため、1996年度は

- ①全国メセナ組織連絡会を結成し、ネットワーク作りに着手します。
- ②地方のメセナ組織結成の動きを支援します。
- ③経営者セミナーにメセナをテーマとする時間の常設を働き掛けます。

2.8 長期ビジョンの策定

21世紀に向けて、当協議会の進むべき方向、役割、事業、経営基盤等を検討する文化人も含めた「21世紀メセナビジョン委員会」を設置し長期ビジョンの策定をいたします。